

第10回ワーキンググループ 議事要旨

開催日時	令和3年3月1日(月) 14時00分～16時00分
開催場所	オンライン開催
議 題	(1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施等の取組状況の把握結果について (2) 報告事項 (3) その他

議 事 要 旨

(1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施等の取組状況の把握結果について

《実施状況調査の分析結果(広域連合)について》

- ・広域連合の取り組み体制について、増員したくてもできない広域連合もあるが、資料中の増員分は増員できた広域連合の人数という認識でよいか。
⇒ 厚生労働省ではそのような数字と考えている。

《実施状況調査の分析結果(市町村)について》

- ・市町村では、保健師が一人で企画調整を担当していることが多いとの結果があったが、これは専任ではなく、保健師の業務に加えて企画調整を担当しているという理解でよいか。
⇒ 国からの交付金を受け取っている市町村に関しては、専従でご担当いただいている。
⇒ 企画調整に関しては保健師が担当するところが現状としては多く、この保健師の確保が難しいという課題があることは認識している。
- ・市町村ではデータを総合的に分析する能力強化や人材の確保が課題となっているが、基本的な分析統計について国なりが基本的マニュアルの作成やセミナー研修等を実施しないと非常に難しいのではないかと。
⇒ 国保中央会ではKDBマニュアル等を作成し、市町村へ配布しているほか、ヘルスサポート委員会等、外部の先生方に健康課題やどのように事業を進めていくか等のご相談をしながら、事業を進めている。
⇒ KDBについては、昨年国保中央会から各都道府県連合会の職員向けに、初歩的な使用方法から分析に至るまで職員毎のスキルに合わせた研修を行っており、今年以降もさらに実施していきたいと思っている。
⇒ KDBの使いやすさについては課題と思っており、なるべく分かり易いマニュアルを作成するとともに、機能改善も引き続き行っていきたいと思っている。
⇒ 現在、国保中央会が中心となり各都道府県連合会の職員研修を行い、その連合会職員が広域連合や市町村のサポートを行うというスキームで進んでいるが、当面はこのやり方で進めていただき、専門家の先生方にはヘルスサポート事業にご協力いただきながら進めていくのが今の方向性ではないかと思っている。
- ・分析の手法と同時に、国から例えば血圧の値の後期高齢者の標準的な範囲等をお示しいただければ、全国的に統一された基準の中で、さらに分析が進んでいくのではないかと。
⇒ 高齢者の基準としては様々なところで研究されているところであり、なるべく国としてもまとめたい方向で考えているので、先生方のご知見をお借りできればと思っている。

- ・後期高齢者の質問票の回答結果について、データとしての蓄積や活用が十分されていないとされているが、この部分の活用について国の検討状況や方針など、市町村に対してお伝えいただくことはできるか。
 - ⇒ 現状の課題としては、健診以外の場でのデータ取込みができないため、国保中央会に本年度改修をお願いしており、データが電子化される方向で進めている。
 - ⇒ また、KDBで様々な抽出、解析ができるよう改修も進めており、市町村への周知とあわせ、KDB活用の部分で、国としてもどのようにできるのか考えながら進めていきたい。
- ・KDBには健診データは既に入っており、来年度は昨年度の健診情報も確認しながら使えるが、通いの場のデータは何回くらい入力可能か。
 - ⇒ 通いの場に関しては、12回程度、毎月1回程度は取り込める形で最大量を考えておりこの内容で改修をお願いしている。
- ・後期高齢者の質問票の結果がデータ化されているがよく見られていないという状況について、まず市町村が改めて見直しを行い、国保連合会や広域連合での研修会で定着させていく等の段階も踏む必要があるのではないか。
 - ⇒ レセプト分析、医療費分析といっても様々な条件があり難しいが、質問票のデータ分析や健診データ分析といった保健師の方々の身近なことから使っていくと、より関心も高まり、分析しなければという気持ちにもなってくるのではないかと、今年度はこの制度を知るためのセミナーが多かったが、来年度のセミナーはまた違うものが要求されるようになるのではないかと、思っている。

《取組事例のヒアリング結果について》

- ・最初の都道府県と市町村名のところに成功要因などと記載されているので、ここは上手くアピールするように、事例を見た方がやる気になるような、雰囲気の良いトーンで締め括っていただくとよいと思う。
- ・成功要因については、より具体的にプロセスが分かるように、また、どのような取組をしてよかったか、どういう方法で行ったのか、ということが分かると、非常に参考になると思う。
- ・取組事例については、初めからうまくいったというよりも、最初は少し課題もあり、そこをどう乗り越えたか、どのように工夫したかなど、動きが分かるようなレポートだと読みがいがあると思うが、これは自治体の関係者に見ていただくという目的で作られるということでよい。
- ⇒ 広域連合や一体的実施をこれから開始しようとしている市町村の方々等に見ていただければと考えている。

(2) 報告事項《新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた高齢者の保健事業事例の紹介について》

- ・事例の内容はとても良い。将来ハイリスクアプローチあるいはポピュレーションアプローチを行う市町村が増えてきた場合には、事後評価も念頭に入れて実施するよう市町村担当者にお伝えいただきたい。
- ・事例からどういうポイントが引き出せるかということも整理してメッセージを出していくことも重要であり、それによりどうなった、それにより高齢者の生活がより活発になっていった、ということを出していければ、よりよい事例紹介になるものと思っている。

以上